

# 宮 城 県 の 経 済 動 向

平成 1 8 年 第 1 四 半 期

( 1 月 ~ 3 月 期 )

## 本県の経済概況

平成 18 年第 1 四半期（1 月～3 月期）の宮城県経済の動向をみると、生産は、回復基調が強まり、緩やかな上昇傾向にある。住宅投資は、持家は低調ではあるが、貸家や分譲住宅は増加している。公共投資は低調である。個人消費は、低調ではあるが、一部に持ち直しの動きがみられる。雇用は、有効求人倍率等が下げ止まってきており、やや改善の動きがうかがわれる。企業倒産は、件数は増加し、負債総額は減少した。

このように、景気は緩やかな持ち直しの動きを続けている。

[ 前期（平成 17 年 10 月～12 月期）の概況 ]

生産は、回復基調が強まり、横ばい傾向から緩やかな上昇傾向にある。住宅投資は貸家、分譲住宅は増加しており、持家は低調に推移している。公共投資は低調である。個人消費は、低調ではあるが、一部に持ち直しの動きがみられる。

一方、雇用は緩やかな改善の動きに停滞感がみられる。企業倒産は件数は横ばいだが、負債総額は増加した。

このように、景気は一服感が解消し、緩やかな持ち直しの動きを続けている。

### 生産

鉱工業生産指数は、前年同期比が 2 期連続の上昇となった。大口電力使用量は、前年同期比が 9 期連続の増加となった。

### 住宅投資

新設住宅着工戸数は、前年同期比が持家は 4 期連続の減少、貸家は 8 期連続の増加、分譲住宅は 2 期連続の増加となった。

全体では 8 期連続の増加となった。

### 公共投資

公共工事請負金額の発注主体別の前年同月比は、国が 3 期ぶりに減少、県が 5 期ぶりに増加、市町村が 2 期連続の増加となった。

全体では 12 期連続の減少となった。

### 大型小売店

大型小売店販売額（百貨店・スーパーの販売額の合計。既存店比較）は、前年同期比が 26 期連続の減少となった。百貨店は前年同期比が 2 期連続の増加となった。スーパーは前年同期比が 26 期連続の減少となった。

### 自動車

軽自動車の新車届出台数を含む乗用車新車登録台数は、前年同期比が 2 期ぶりに増加となった。普通車は前年同期比が 5 期連続の減少、小型車は前年同期比が 2 期ぶりに増加、軽自動車は前年同期比が 4 期連続の増加となった。

### 物価

仙台市消費者物価指数は、生鮮食品を除く総合指数は、前年同期比が 9 期ぶりに上昇となった。総合指数は、前年同期比が 5 期ぶりに上昇となった。

### 雇用

有効求人倍率（原指数）は、前年同期差が 2 期ぶりに上昇となった。新規求人倍率（原指数）は、前年同期差が 3 期ぶりに上昇となった。

実質賃金指数（製造業・30 人以上）は、前年同期比が 5 期ぶりに低下となった。

### 企業倒産

企業倒産は、件数は前年同月比が 3 期ぶりに増加となった。負債総額は前年同月比が 3 期ぶりに減少となった。

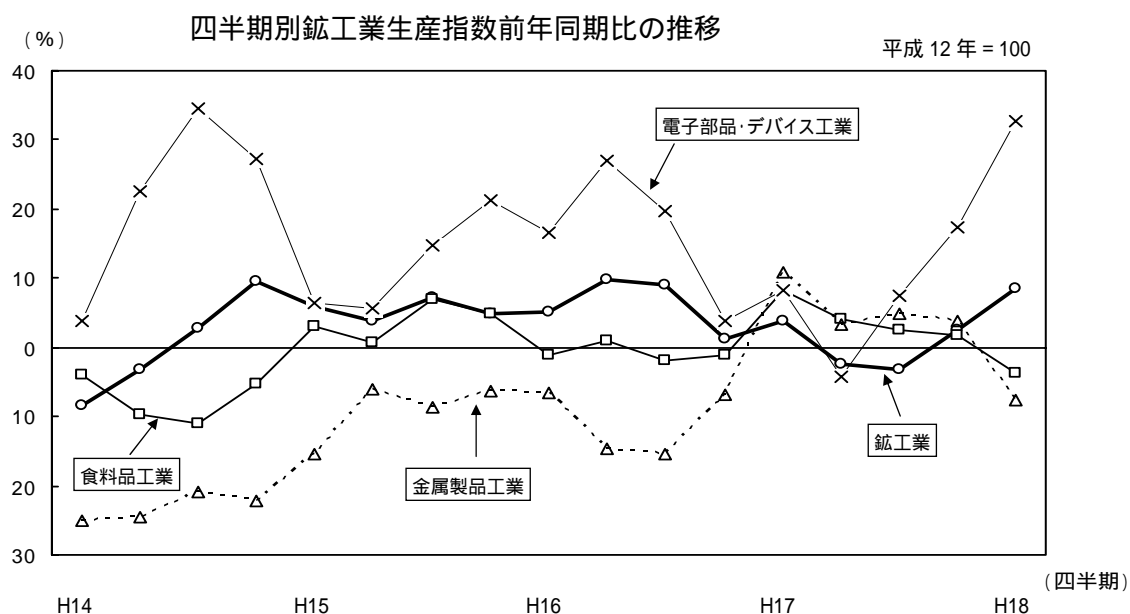
# 生産

## (1) 鉱工業生産指数

平成 18 年第 1 四半期(1月～3月期)の鉱工業生産指数(季節調整済)は 114.2(平成 12 年 = 100)で、前年同期比(原指数での比較)8.5%の上昇となり、2期連続の上昇となった。

ウェイトの大きい業種を中心にみると、電子部品・デバイス工業は前年同期比が 32.8%の上昇となり、3期連続の上昇となった。パルプ・紙・紙加工品工業は前年同期比が 4.9%の上昇となり、2期連続の上昇となった。電気機械工業は前年同期比が 4.9%の上昇となり、平成 16 年第 3 四半期以来、6期ぶりに上昇となった。一般機械工業は前年同期比が 32.4%の上昇となり、4期連続の上昇となった。

一方で、食料品工業は前年同期比が 3.6%の低下となり、平成 16 年第 4 四半期以来、5期ぶりに低下となった。金属製品工業は前年同期比が 7.6%の低下となり、平成 16 年第 4 四半期以来、5期ぶりに低下となった。

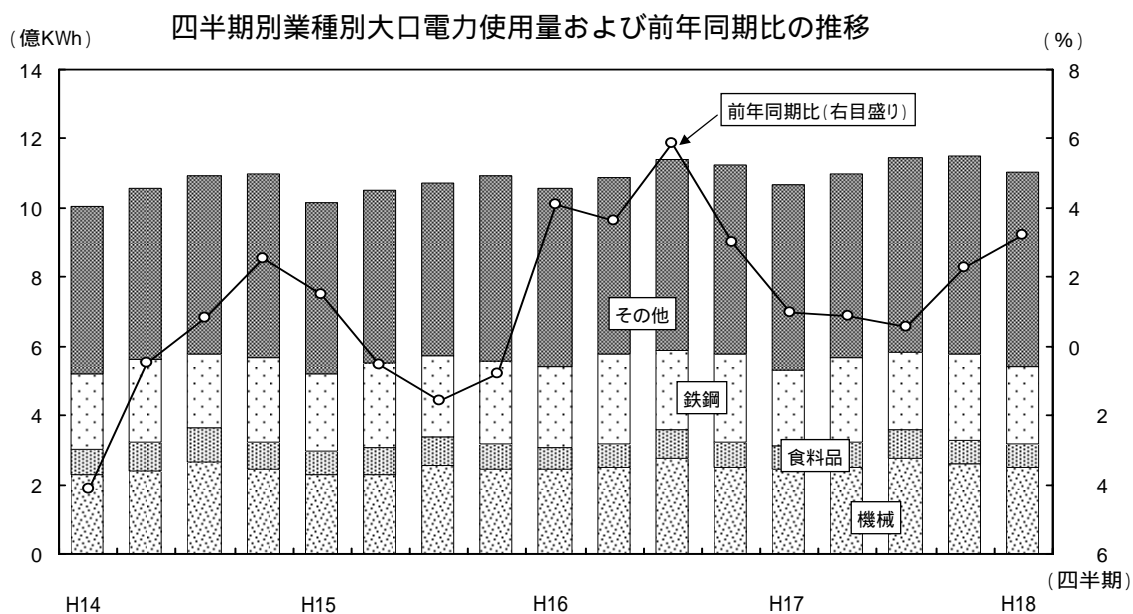


(資料:宮城県統計課)

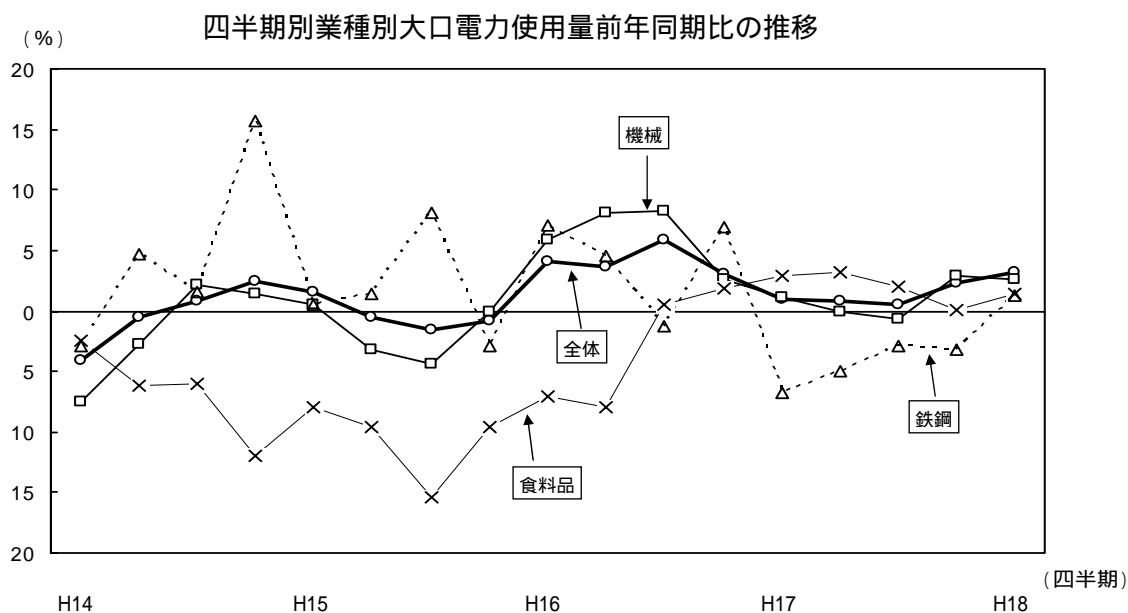
## (2) 大口電力使用量

平成18年第1四半期(1月～3月期)の大口電力(契約電力500KW以上)使用量は11億365万 kWhで、前年同期比3.2%の増加となり、平成16年第1四半期以降、9期連続の増加となった。

主要業種別にみると、食料品分野は前年同期比が1.4%の増加となり、平成16年第3四半期以降、7期連続の増加となった。機械分野は前年同期比が2.6%の増加となり、2期連続の増加となった。鉄鋼分野は前年同期比が1.3%の増加となり、平成16年第4四半期以来、5期ぶりに増加となった。



(資料: (株)東北電力宮城支店「業務資料」)



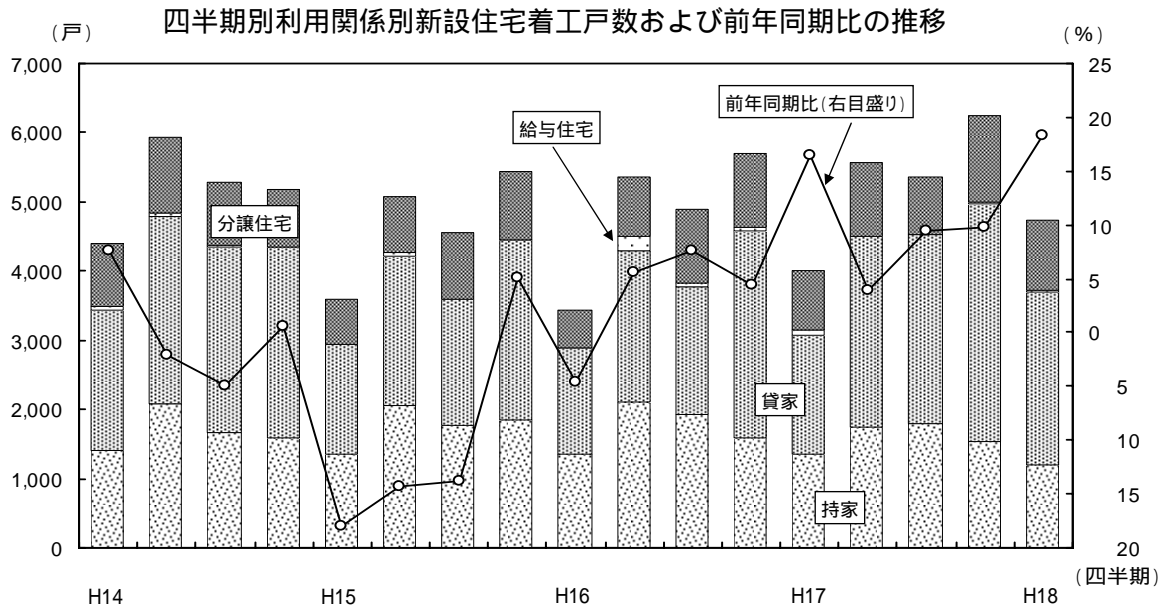
(資料: (株)東北電力宮城支店)

# 建設投資

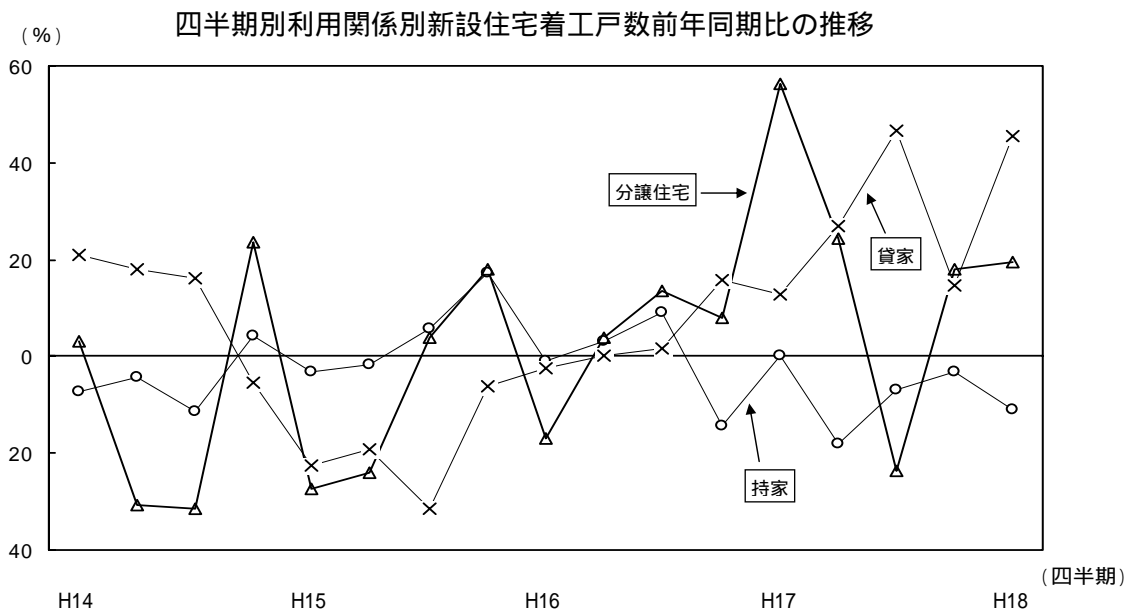
## (1) 新設住宅着工戸数

平成18年第1四半期(1月～3月期)の新設住宅着工戸数は4,736戸で、前年同期比18.4%の増加となり、平成16年第2四半期以降、8期連続の増加となった。

利用関係別にみると、持家(建築主が自分で居住する目的で建築するもの)は前年同期比が11.0%の減少となり、4期連続の減少となった。貸家(建築主が賃貸する目的で建築するもの)は前年同期比が45.3%の増加となり、平成16年第2四半期以降、8期連続の増加となった。分譲住宅(建売または分譲の目的で建築するもの)は前年同期比が19.4%の増加となり、2期連続の増加となった。



(資料:国土交通省)

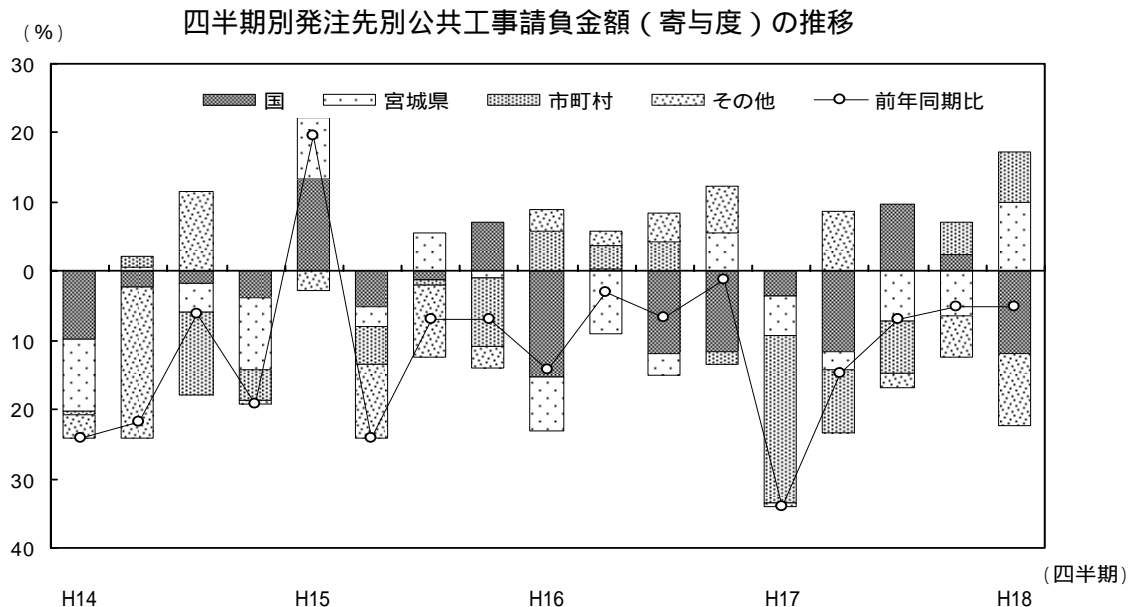
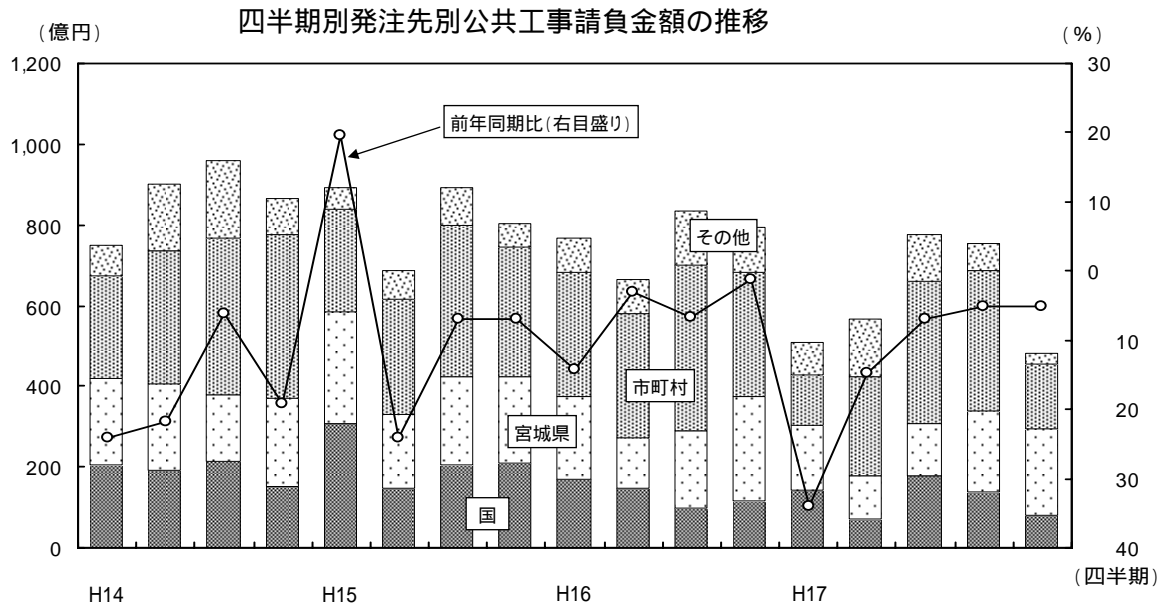


(資料:国土交通省)

## (2) 公共工事請負金額

平成18年第1四半期(1月～3月期)の公共工事請負金額は480億9,600万円で、前年同期比5.1%の減少となり、平成15年第2四半期以降、12期連続の減少となった。

発注者別にみると、国は前年同期比が42.7%の減少となり、3期ぶりに減少となった。宮城県は前年同期比が30.9%の増加となり、平成16年第4四半期以来、5期ぶりに増加となった。市町村は前年同期比が30.6%の増加となり、2期連続の増加となった。

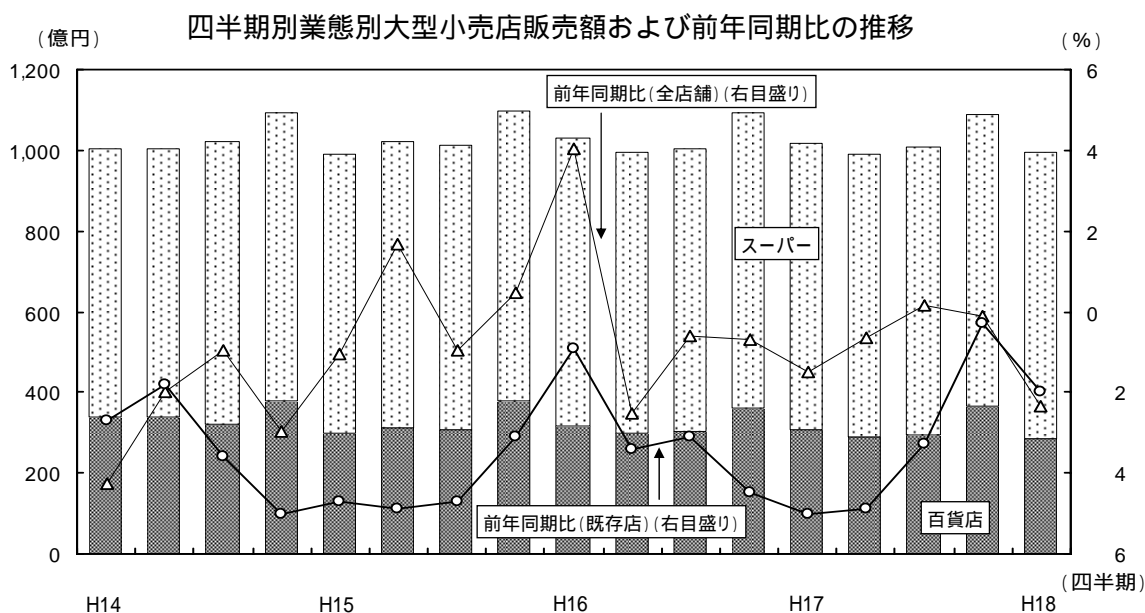


# 個人消費

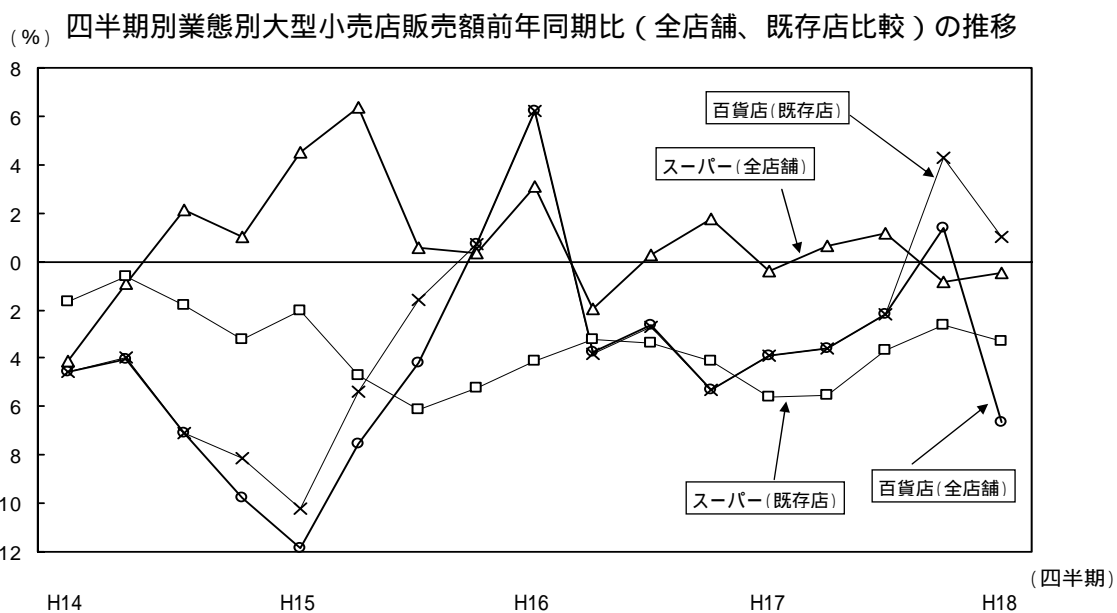
## (1) 大型小売店販売額

平成18年第1四半期(1月～3月期)の大型小売店販売額は、993億2,800万円で、前年同期比(既存店比較)は2.0%の減少となり、平成11年第4四半期以降、26期連続の減少となった。

業態別にみると、百貨店の販売額は285億6,000万円で、前年同期比1.0%の増加となり、2期連続の増加となった。スーパーの販売額は707億6,700万円で、前年同期比が3.3%の減少となり、平成11年第4四半期以降、26期連続の減少となった。



(資料:東北経済産業局)

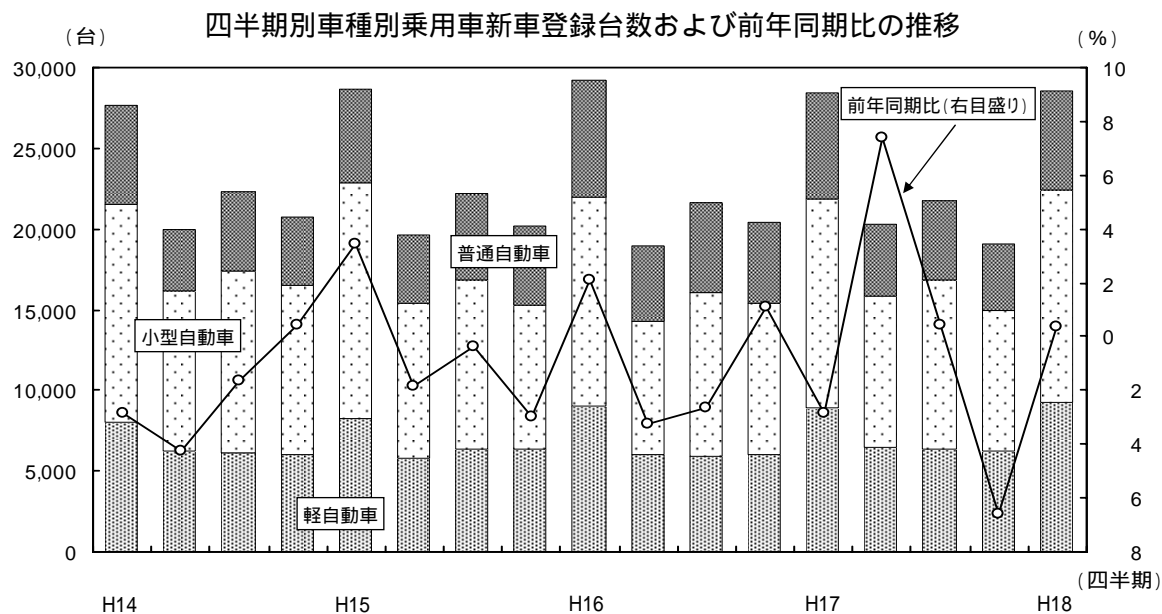


(資料:東北経済産業局)

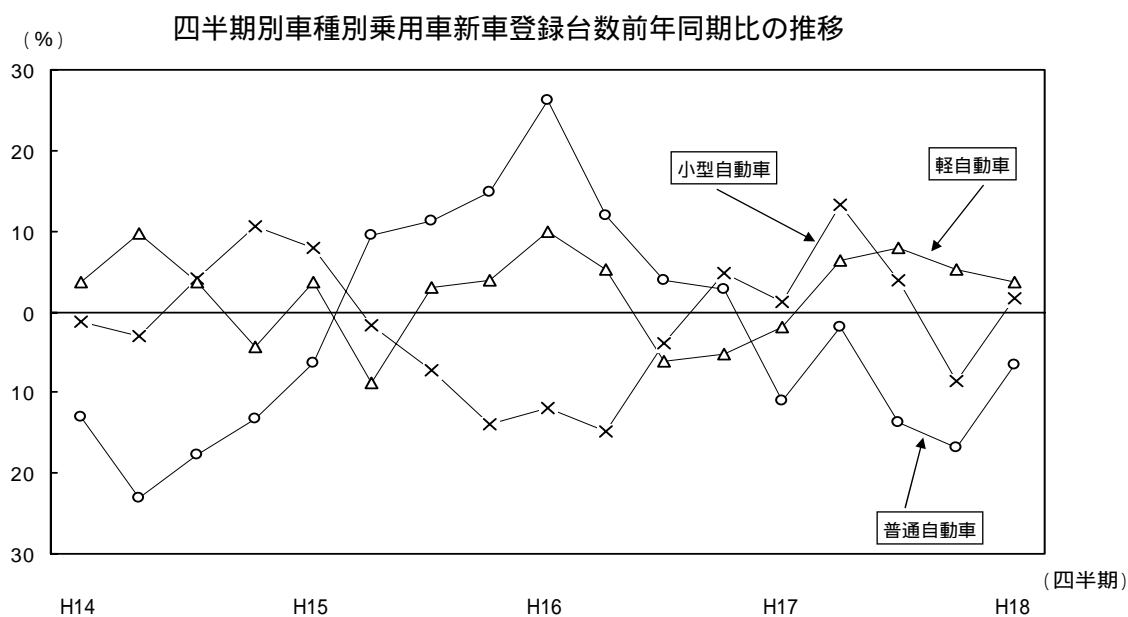
## (2) 乗用車新車登録台数

平成 18 年第 1 四半期 (1 月 ~ 3 月期) の軽自動車の新車届出台数を合わせた乗用車新車登録台数は 2 万 8,533 台で、前年同期比 0.4% の増加となり、2 期ぶりに増加となった。

車種別にみると、普通車 (排気量 2,000cc 超) は前年同期比が 6.7% の減少となり、平成 17 年第 1 四半期以降、5 期連続の減少となった。小型車 (排気量 2,000cc 以下) は前年同期比が 1.6% の増加となり、2 期ぶりに増加となった。軽自動車 (排気量 660cc 未満) は前年同期比が 3.7% の増加となり、4 期連続の増加となった。



(資料: 自動車販売協会連合会宮城県支部、全国軽自動車協会連合会)



(資料: 自動車販売協会連合会宮城県支部、全国軽自動車協会連合会)

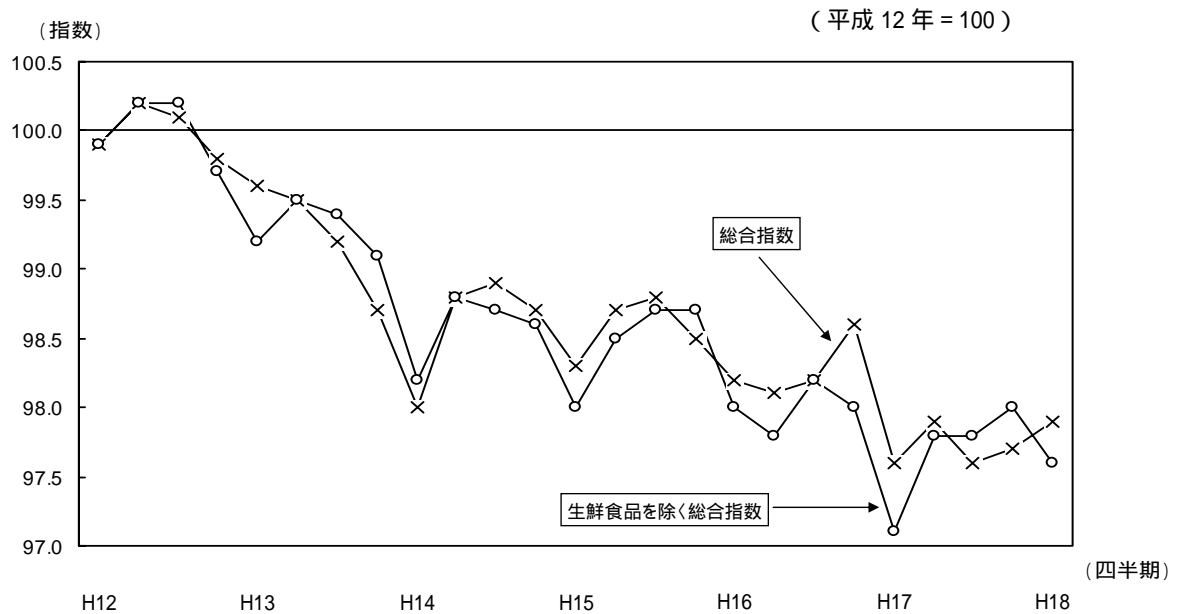


# 物 価

## (消費者物価指数)

平成 18 年第 1 四半期( 1 月～ 3 月期)の平均仙台市消費者物価指数(平成 12 年 = 100)は総合指数は 97.9 で、前年同期比 0.3%の上昇となり、平成 16 年第 4 四半期以降、5 期ぶりに上昇となった。生鮮食品を除く総合指数は 97.6 で、前年同期比 0.5%の上昇となり、平成 15 年第 4 四半期以来、9 期ぶりに上昇となった。

総合指数および生鮮食品を除く総合指数の推移



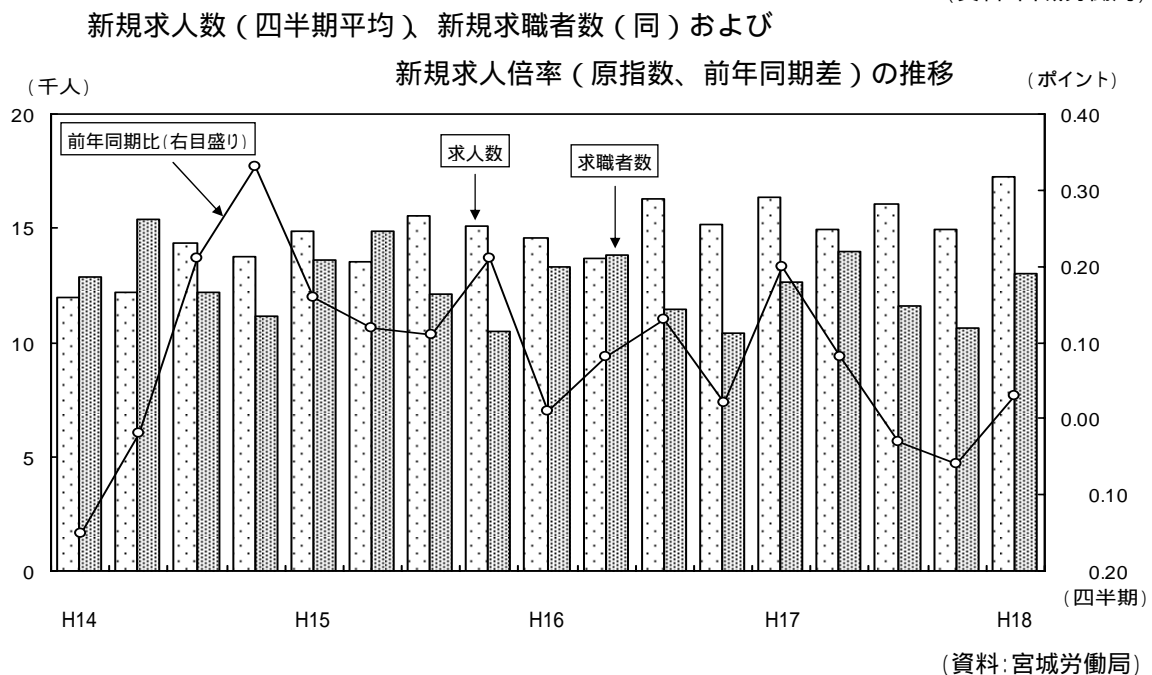
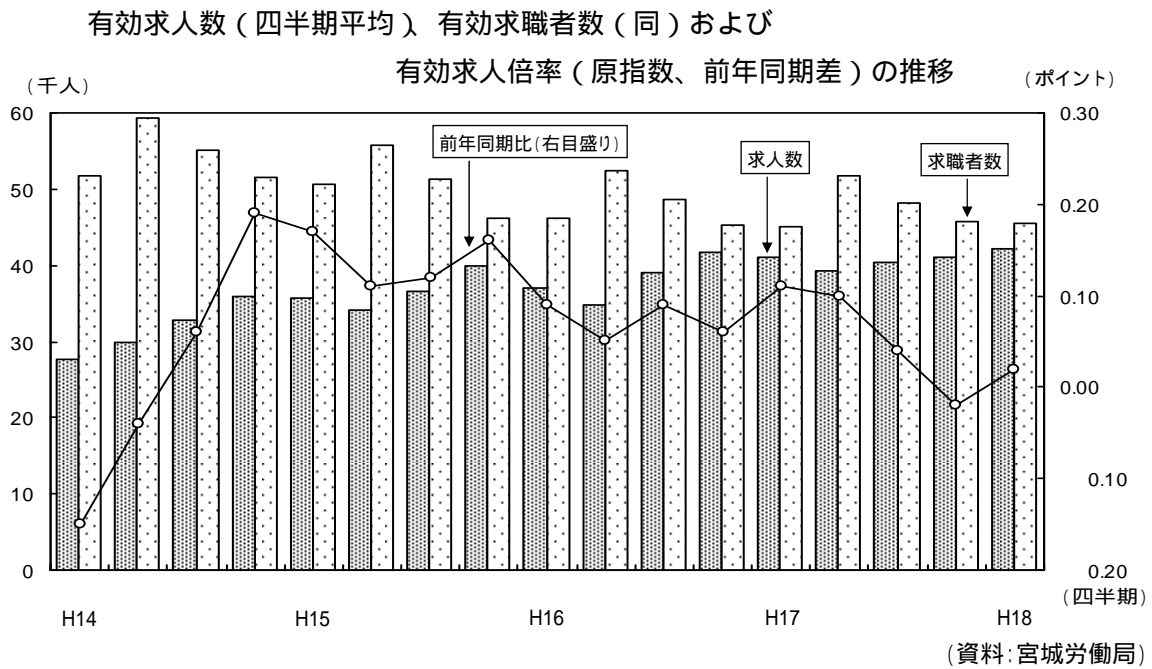
(資料出所:宮城県統計課)

# 雇 用

## (1) 有効求人倍率および新規求人倍率

平成 18 年第 1 四半期（1 月～3 月期）の有効求人数（月平均値）は 4 万 2,248 人で、前年同期比 3.0% の増加となった。有効求職者数（同）は 4 万 5,413 人で、前年同期比 0.9% の増加となった。有効求人倍率（原指数）は 0.93 倍で前年同期差は、0.02 ポイント上昇し、2 期ぶりに上昇となった。

新規求人数（月平均値）は 1 万 7,286 人で、前年同期比 5.5% の増加となった。新規求職申込件数（同）は 1 万 2,989 人で、前年同期比 2.8% の増加となった。新規求人倍率（原指数）は 1.33 倍で前年同期差は、0.03 ポイント上昇し、3 期ぶりに上昇となった。

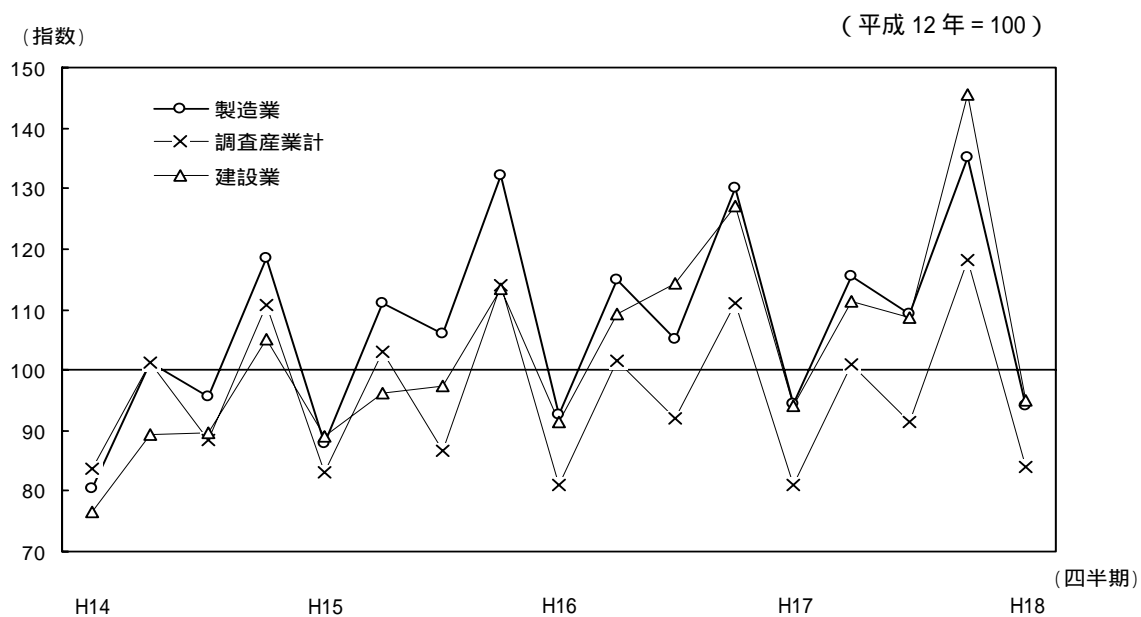


## (2) 賃金

平成 18 年第 1 四半期（1 月～3 月期）の実質賃金指数（平成 12 年 = 100）の調査産業計（事業所規模 30 人以上）は 84.0 で前年同期比 3.6% の上昇となり、2 期連続の上昇となった。

主要業種別にみると、製造業（事業所規模 30 人以上）は 94.0 で前年同期比 0.3% の低下となり、平成 16 年第 4 四半期以来、5 期ぶりに低下となった。建設業（事業所規模 30 人以上）は 95.1 で前年同期比 1.2% の上昇となり、2 期連続の上昇となった。

四半期別主要業種別実質賃金指数の推移（事業所規模 30 人以上）



(資料出所:宮城県統計課)

# 倒産

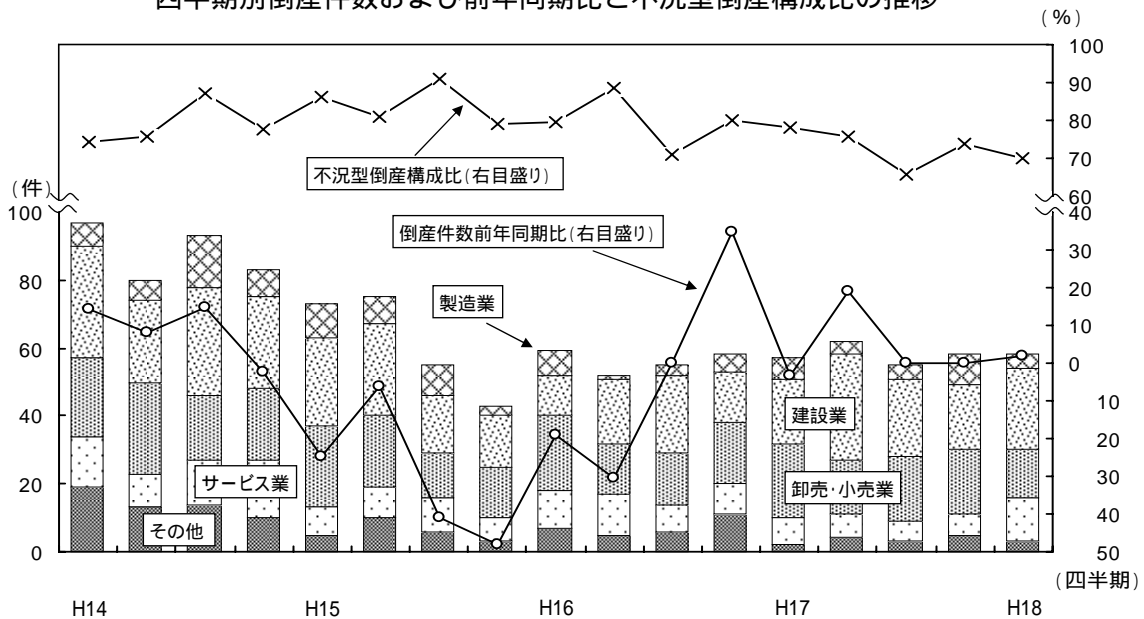
## (企業倒産)

平成18年第1四半期(1月～3月期)の宮城県内の企業倒産(負債総額1千万以上)の件数は58件で、前年同期比1.8%の増加となり、3期ぶりに増加となった。負債総額は84億1,600万円で、前年同期比49.8%の減少となり、3期ぶりに減少となった。

これらのうちの不況型倒産(販売不振、売掛金回収困難、赤字累積)の件数は43件で、前年同期比12.2%の減少となった。件数の構成比は74.1%で前年同期より11.9ポイント低下となったが、依然として高水準で推移している。

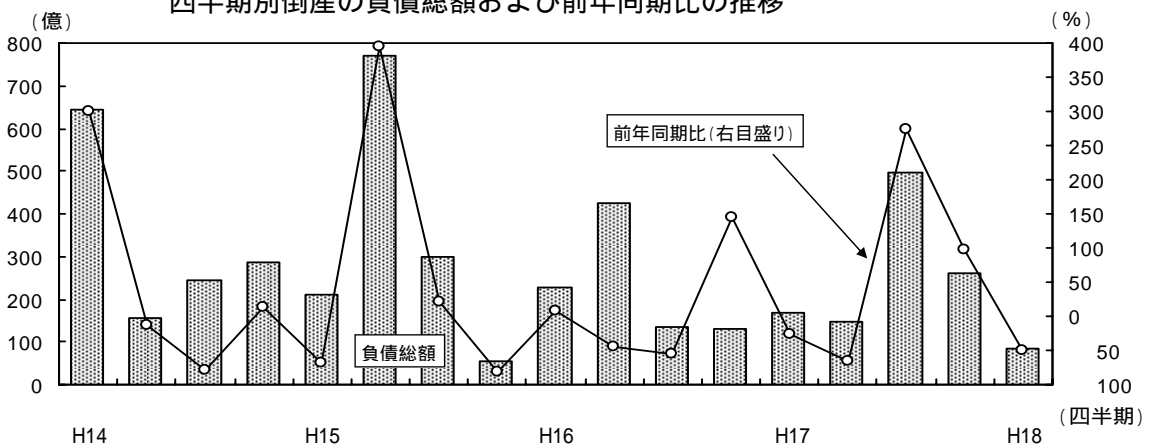
大型倒産(負債総額10億円以上)は2件発生し、前年同期より1件多く発生した。負債総額24億円であった。

四半期別倒産件数および前年同期比と不況型倒産構成比の推移



(資料: (株)東京商工リサーチ)

四半期別倒産の負債総額および前年同期比の推移



(資料: (株)東京商工リサーチ)